

令和3年度『研究授業』報告

教務部

公開授業週間（令和3年10月1日（金）～10月7日（木））の期間中に、「研究授業」が実施されました。今年度も昨年度同様、コロナウィルスの影響を考慮し、保護者、中学校への公開は行わず、校内のみの実施としました。次年度のBYOD実施に向け、1人1台のタブレットを利用した授業をテーマとし、実施しました。

① 外国語（コミュニケーション英語Ⅱ）

『宇宙ゴミ』をテーマにした授業でした。生徒各自にタブレットを1台持たせて、授業の始めに小テストをタブレットで実施。終了後すぐに正答率や誤解答の情報を共有して解説し、生徒は間違えた問題に対してすぐに修正ができるので、高いモチベーションを持って授業を受けている様子でした。授業の導入もクイズ形式で全員が考えて解答し、各解答の割合もグラフ化してフィードバックしており、生徒は楽しく授業に参加して、自然に授業に入っていくことができている様子でした。



② 数学科（数学A）

生徒各自がタブレットを1台持ち、図形の性質に関する小テストをタブレット上で記入して答え、そのままファイルを保存して提出していました。また、前回行った小テストの解答も、タブレットで閲覧できるように配信し、各自がそのファイルを開き、前回各自が保存した小テストと照合して確認し、復習できるように工夫されていました。問題解説や授業の説明なども、プロジェクターを用いた電子黒板で、ペンの色などを変えて、分かりやすく行われていました。



③ 総合的な探究の時間（体育）

2～3人で班を作り、陸上8種競技の「やり投げ」を習得する授業内容でした。各班に1台ずつタブレットを用意して、お互いにフォームを撮影し合い、自分自身の投げ方を映像で確認し、アドバイスを受けながら集約検討し、良い点悪い点を確認することで、各自の技術向上を図っていました。選択科目ということもあってスポーツ好きの生徒が集まっているようで、難易度の高い種目に向上心をもって取り組んでいました。また、担当教員だけでなく、複数の体育科教員が加わり、きめ細かな指導が行われ、他者の視線と記録によって、程よい緊張感が生まれていました。



④ 芸術科（美術Ⅰ）

ジャガイモを題材とした、木彫の授業でした。前時までにジャガイモの鉛筆デッサン、木彫用の設計図の作成を行っており、本時は1辺10cmの立方体の木材から、のこぎりを用いてジャガイモを大まかに切り出す作業を行っていました。今後、作業が進展すると、小さいナイフ、彫刻刀を用いて仕上げを行っていくそうですが、生徒の作品の進み具合を見ていると、まだまだのこぎりを使う時間が続くのではないかと思います。皆、軍手をして周囲の安全に気を配りながら、集中して作品作りに取り組んでいました。



⑤ 国語科（現代文Ⅰ）

小説「こころ」の時代背景について発表形式の授業でした。4人×8班のグループワークで、プロジェクターを利用して班ごとに5分間の発表を行います。聞き手は各自1台のタブレットを使用し、説明を聞きながら、プリントにまとめていく作業を行います。生徒は本授業までに、班ごとに、江戸、明治、現代の時代別に価値観、道徳観、職業観、…などについて調べており、その内容を発表していきます。発表後には、日本史の先生からも追加説明を受けるという教科を超えた指導がなされていました。授業の最後に、完成したプリントをタブレットのカメラで撮影し、提出箱に保存する作業も含め、中身の濃い授業でした。



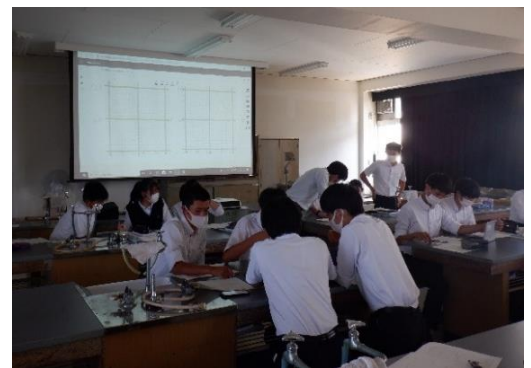
⑥ 地理歴史科（世界史A）

「帝国主義とアジアの近代化」における「日本の植民地支配と近代化」をテーマに、ワークシートで発せられた問いについて、意見交換を交えながら各自で調べ学習をする授業でした。図説や配布された資料だけでなく、手持ちのスマートフォンを利用しながら、教科書だけでは見えてこないさまざまな歴史観について理解できているようでした。日本と欧米諸国との植民地支配の違いについて確認したうえで、生徒たちは、他者の意見も参考にしながら、自分の意見をまとめていました。単に史実を学ぶだけでなく、SDGsの17の目標にも触れ、「世界平和」を実現するために必要なことは何かを考える展開になっており、歴史を学ぶことの意義が感じられる授業でした。



⑦ 理科（化学S）

時計反応を用いた反応速度の測定の実験及びその実験結果のデータ解析についての授業でした。班毎に濃度と温度の条件を変えて実験し、各班が実験結果のデータをタブレット上で一枚のホワイトボードにそれぞれ記入し各班の実験結果を集約してグラフ化し、全体の関係性を見るという内容でした。そのグラフをプロジェクターで投影して全員がリアルタイムで確認することができます。サインインやタブレットの操作に不慣れな生徒もいましたが、授業の終わり頃にはグラフの概形が完成していました。全員でひとつのものを作り上げていくという達成感も得られる授業でした。



⑧ 地理歴史科（世界史B）

中世の教会建築の歴史を、建物の画像を比較しその違いを考える授業でした。タッチペンとタブレットを使い、生徒自身が気づいたことを端末に書き入れます。それを、隣席同士で比べ、さらに品評会のように机の上に置いてあるタブレットを全員が回遊して鑑賞する時間もありました。その間、授業のタイムキープを次々と示していった無駄や隙を与えず、各自に人の見解に耳を傾けることやなにがしかの発見——違いや同一性を見つけることができます。頃合いを見て資料集や生徒の代表的な意見を提示して一気に教会建築の歴史の核心的な部分について迫っていった、講義に入る。スピーディかつ変化に富んだ授業でした。

